

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

派遣大会・事業名	令和7年度第47回 関東ミニバスケットボール大会
派遣期間	令和8年3月7日(土)～3月8日(日)
報告者	田中 由紀子、宮島 叶星、今井 康輔
派遣先	山梨県甲府市、山梨県韮崎市

派遣スケジュール

3月3日	審判会議
3月7日	予選リーグ
3月8日	決勝リーグ

大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	佐田 幸一 氏、手塚 清孝 氏、雨宮 恵 氏、丸山 淳 氏
指名審判員	

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

【講師 雨宮 恵 氏】

《かっこいいプレゼンテーションを求めて》

～かっこいいプレゼンテーションとは?～

かっこいいプレゼンテーションには、次の2点が必要である。

①伝わるプレゼンテーション

選手・ベンチ・観客など、多くの人に明確に伝わるプレゼンテーションを目指す。

②自分にあったプレゼンテーション

審判それぞれで身長や体格は異なる。その中で、自分の特徴を活かしたプレゼンテーションを研究することが大切である。

～かっこいいプレゼンテーションをするために工夫・実践できること～

- ・レポートの出し方に緩急をつける
- ・自分に合ったプレゼンテーションを見つけるため、様々なレフリーのプレゼンテーションに注目して試合観戦や動画視聴を行い、自分のプレゼンテーションに取り入れる。

例えば、立ち姿や走る姿、アウトオブバウンズのシグナルの出し方、笛の強弱や長さ、音色の使い分け、ファウルコールの見せ方、レポートの間の取り方、注目の集め方などである。
自分が「かっこいい」と感じるプレゼンテーションを研究し、自身のスタイルとして取り入れていく。

～かっこいいプレゼンテーションをするために忘れてはいけないこと～

かっこいいプレゼンテーションを実現するためには、『正確な判定』が不可欠である。そして、正確な判定は『正しいメカニクス』の上に成り立つ。

走る、止まるといった基本的動作を繰り返す中で正確な判定が生まれ、それがかっこいいプレゼンテーションに繋がる。

プレゼンテーションだけ、あるいは判定力だけではなく、両方のレベルアップを目指すことが重要である。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

担当試合

試合日	令和8年3月7日(土)
回戦 カード 点数	女子予選リーグ 11:10 柿生フィリーズ(神奈川1) 30-48 鶴ヶ島ドリームス(埼玉2)
会場	東京エレクトロン荊崎アリーナ
審判員名	CC:堀内 勝男 氏(山梨) U1:田中 由紀子
審判員主任名	羽田 由信 氏(山梨)
試合振り返り	
<p>・判定自体は正しいものの、POCに疑問を感じる場面が見られた。間を取り状況を整理したうえでレポートを行うことで、より説得力のあるプレゼンテーションにつながると感じた。</p> <p>・トレイルでの判定において、動きながらコールしている場面が見られた。止まって判定できるよう意識することで、より安定した判定につながる。</p> <p>・リバウンドの場面でのファウルの判定が少なかったが、コンタクトの状況を踏まえ、どのようなプレーが起きたのかを振り返る必要がある。手の使い方について整理することも有効であったと考える。</p> <p>・セカンダリーでのコールは良い場面が見られたため、今後も継続していけると良い。</p>	

担当試合

試合日	令和8年3月7日(土)
回戦 カード 点数	男子予選リーグ 14:40 敷島北(山梨2)33-52 ポンズ茨城(茨城1)
会場	東京エレクトロン荊崎アリーナ
審判員名	CC:田中 由紀子 U1:大野 紗佳 氏(埼玉)
審判員主任名	手塚 清孝 氏(本部)
試合振り返り	
<p>・クルー間でもよくアイコンタクトを取りながら、試合を進行することができていた。</p> <p>・前半のプレーコーリングは良かった。負けているチームにもファウルゲームの意図は見られなかったため、エンドオブゲームまで前半と同様の基準で判定を継続できると良かった。</p> <p>・レフェリーの意図は感じられたが、それがプレーヤーやベンチに伝わりにくい場面もあった。声を使う、コミュニケーションを取る、笛で示し続けるなど、状況に応じた工夫が今後必要である。</p> <p>・速攻時のリードの入り方について、入る位置によってはストレートとなり見えにくくなる場面がある。セットアップポジションに入るのか、クローズダウンポジションに入るかを見極めて対応できると良い。</p>	

様式2

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

担当試合

試合日	令和8年3月8日(日)
回戦 カード 点数	女子1位リーグ 11:20 東深井レインボーズ(千葉2) 40-36 鶴ヶ島ドリームス(埼玉2)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:長沼 大平 氏(山梨) U1:田中 由紀子
審判員主任名	丸山 淳 氏(本部)
試合振り返り	
<p>・ボールが次のマッチアップに渡った後にポジションアジャストしようと動くのでは遅く、パスが出た瞬間に次のプレーを予測して先回りして見られるように動けると良い。</p> <p>・ショットクロック成立間際にファウルの判定があった場面では、その場で声を使いファウルが先に起きたことを明確に示すことで、周囲が納得できる判定につながる。伝え方や見せ方に工夫が必要な場面であった。</p> <p>・ルーズボールへの身体の使い方にイリーガルなものがなかったかを確認する必要がある。ボールのコントロールが明らかな場面での判定はできていて当然であるが、ルーズボールやリバウンドのようにプレーヤーが懸命にプレーする場面で、その頑張り認めること、また頑張りすぎであることをプレーヤーやベンチに伝えることも、オンザコートに立つレフリーの重要な役割である。そのことを意識して判定し、プレーヤーやベンチに伝えられると良い。</p>	

担当試合

試合日	令和8年3月8日(日)
回戦 カード 点数	男子3位リーグ 14:50 楡形GRB(山梨4)42-44 忍野DREAMS(山梨1)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:大島 和馬 氏(千葉) U1:田中 由紀子
審判員主任名	堀内 勝男 氏(山梨)
試合振り返り	
<p>・二人の判定数に差があり、基準が異なっているように見受けられた。クォーター間やハーフタイムで話し合いを行い、基準のすり合わせができると良かった。</p> <p>・オフェンスファウルの判定については、プレゼンテーションをより大きく見せることで、さらに説得力のある判定につながると感じた。</p> <p>・拮抗した試合展開となったが、最終的にはプレーヤーが試合を決める形となり、良い終わり方となっていた。</p>	

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

<p>この度、関東大会への派遣を通して得られたことについてご報告いたします。</p> <p>今回の関東派遣では、ミニバスケットボール特有の競技特性に伴う難しさを改めて実感しました。体格差がある中での「影響」の適切な見極めや、1Q・2Qで出場するメンバーが大きく異なることから、前半でどこまでゲームを作り、戦力が揃う後半へどうつなげていくかなど、チーム状況やゲームの流れの変化を見極めた上でのレフェリングの必要性を強く再認識しました。</p> <p>また、小学生であるプレーヤーは、これまでコーチから教わってきたことを一生懸命に発揮しようとするため、審判の笛の意図を十分に汲み取ることが難しい場面もあります。そのような場面では、レフリーからベンチコミュニケーションを図り、判定の意図を伝えることも一つの手段であると強く感じました。これは現在の自分に不足している技術であり、今後の課題であると考えています。</p> <p>今後は、講師やIRの皆様からいただいたアドバイスを糧に、ミニバス特有の難しさを自分自身の「強み」へと変え、ミニバスの枠に留めることなく、あらゆるカテゴリーのレフェリングにも活かしていけるよう、訓練と研鑽を重ねて参ります。最後になりましたが、本大会の運営にご尽力いただいた皆様、山梨県審判員の皆様、ならびに派遣審判員の皆様に厚く御礼申し上げます。</p>

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

担当試合

試合日	令和8年3月7日(土)
回戦 カード 点数	男子予選リーグ 12:20 千代田(群馬2) 37-29 敷島北(山梨2)
会場	東京エレクトロン韮崎アリーナ
審判員名	CC:宮島 叶星 U1:大倉 裕史 氏(東京)
審判員主任名	渡辺 信也 氏(山梨)
試合振り返り	
<p>・クルーチーフとして、処置ミス等もなく試合を終えることができた点はよかった。</p> <p>・第4Qに入り試合が拮抗した場面では、ディフェンスの体の寄せ方や手の出し方の質が変化していたが、判定すべき場面でコールに至らないことがあった。プレーの予測と、それに基づいた適切なアングルの確保が必要だと感じた。</p> <p>・エンドスローインの際、ボールを出したプレーヤーにマッチアップしているディフェンスの足にボールが当たりコート外に出る場面があった。リードの審判はアウトオブバウンズとして判定したが、時間管理を担うトレイルとして、ディフェンスの足に当たったかどうかも含めてリードに確認するなど、より丁寧な時間管理を行う必要があった。</p>	

担当試合

試合日	令和8年3月7日(土)
回戦 カード 点数	女子予選リーグ 15:50 V・GOD-DESS(山梨3) 48-38 柿生フィリーズ(神奈川1)
会場	東京エレクトロン韮崎アリーナ
審判員名	CC:井上 博之 氏(茨城) U1:宮島 叶星
審判員主任名	山岡 忠 氏(神奈川)
試合振り返り	
<p>・終始白熱した試合展開となり、イリーガルな手が多く見られた。ファウルの判定や、プレーヤーへの声掛けにより正しいプレーを促し、怪我なく試合を終えることができた。</p> <p>・多くはなかったものの、両ベンチから判定に関する意見や質問があった。ベンチとコミュニケーションを取りながら試合を進めることの重要性を学んだ試合であった。指導者への声掛けや質問への受け答えには課題があると改めて感じた。</p> <p>・エリア3からのドライブでは、ウィークサイドドライブかストロングサイドドライブかによって、リードとトレイルのどちらが見やすいかが変わる。そのため、プレーを予測し、事前に適切なアングルを確保しておくことの重要性を感じた。</p>	

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

担当試合

試合日	令和8年3月8日(日)
回戦 カード 点数	男子2位リーグ 10:10 リトルファイブ幕張(千葉2) 30-35 下妻ジャスティス(茨城2)
会場	東京エレクトロン韮崎アリーナ
審判員名	CC:山岡 忠 氏(神奈川) U1:宮島 叶星
審判員主任名	手塚 清孝 氏(本部)
試合振り返り	

・チームやベンチの状況を、都度、クルーで共有できた点はよかった。
 ・ボールをコントロールしていないプレーヤーに対して、フェイスガードでマッチアップしているプレーヤーと、ボールをコントロールしているプレーヤーにマッチアップしているプレーヤーが、トレイルエリアにいる場面での、アングルの取り方に課題を感じた。フェイスガードされているプレーヤーはチームの中心プレーヤーでもあったため、何も起きていないことも含め、より丁寧に確認する必要がある。
 ・拮抗した試合展開の中で、オフェンスプレーヤーがエリア4からベースラインドライブをした際、ディフェンスプレーヤーによるゴールテンディングがあったが、トレイルでリバウンド争いに視野を向けていたため、確実な確認ができず、判定することができなかった。プレーヤーのフィジカルや心情から考えられるプレーの予測、判定の引き出しなどに課題が残る現象となった。

担当試合

試合日	令和8年3月8日(日)
回戦 カード 点数	女子3位リーグ 13:40 忍野ウィザーズ(山梨4) 22-37 フリッパーズ(神奈川2)
会場	東京エレクトロン韮崎アリーナ
審判員名	CC:吉水 美穂 氏(山梨) U1:宮島 叶星
審判員主任名	雨宮 恵 氏(本部)
試合振り返り	

・ファウル判定後、スコアラーズテーブルに対して落ち着いて声を使いレポートを行なったことで、判定により説得力を持たせることができた。
 ・終始落ち着かない試合展開の中で、第2Qにはファウルを判定をすべき現象が多くあった。
 ・ボールをコントロールしていないプレーヤーに対するディフェンスのつき方や、リバウンド争いでスクリーンアウトをしている場面でのイリーガルな手を、より細かく確認する必要がある。
 ・ファウルの判定自体はできていたが、POCをより丁寧に確認する必要があると感じた。「何によって最も影響を受けてRSBQが崩れたのか」を正しく捉えて判定するためには、プレーを長く見ることが重要である。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

栃木県派遣審判員として本大会に参加させていただきました。高さやパワー、技術のあるプレーが多い中で、どの現象をファウルと取り上げるべきか、また取り上げないべきかについて悩みながら、多くの学びを得た二日間となりました。
 本大会では、トレイルのアングルの取り方に工夫が必要であることを学ぶことができました。特に、ボールをコントロールしていないプレーヤーへの守り方や、リバウンド、ルーズボールなどのプレーを長く丁寧にみることもできるようなトレイルのアングルを常に見つけていく必要があると感じました。また、試合展開やプレーヤーの心情など様々な状況を踏まえた上で行うプレーの予測や、判定の引き出しを増やしていくことが課題として挙げられました。今後はその課題と向き合い、自身の技術向上に繋げていきたいと感じました。
 最後にありますが、本大会への派遣に際しまして、ご配慮いただきました梶審判長をはじめ、県内審判員の皆様、大会関係者各位に心より御礼申し上げます。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

担当試合

試合日	令和8年3月7日(土)
回戦 カード 点数	男子予選リーグ 10:00 Zeus U12(東京1)12-43下妻ジャスティス(茨城2)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:山本 恵一 氏(山梨) U1:今井 康輔
審判員主任名	根本 優 氏(茨城)
試合振り返り	
<p>・このゲームでは、一方のチームにビッグマンが多くいる中で、その選手たちに対する下妻の選手の守り方をどのように判定していくかが鍵になった。</p> <p>・プレゲームカンファレンスでクルー間の共通認識を持ち、ビッグマンに対する体の使い方や、そのビッグマンの足元の確認などを一試合通して行った。</p> <p>・ボール運びに対するディフェンスの手の出し方について、オフェンスのRSBQが崩れているのかを、もう少し丁寧に見極める必要があった。</p> <p>・このゲームの反省点として、どのPOCを選択することで選手やベンチ、観客にメッセージを伝えることができるのかを意識して判定する必要があるとの助言を受けた。</p>	

担当試合

試合日	令和8年3月7日(土)
回戦 カード 点数	男子予選リーグ 13:30 戸田(埼玉1)40-23忍野ウィザーズ(山梨4)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:山田 聡 氏(神奈川) U1:今井 康輔
審判員主任名	山本 恵一 氏(山梨)
試合振り返り	
<p>・1試合目に引き続き、一方のチームにビッグマンがいることをプレゲームカンファレンスで確認し、その選手に対する小柄な選手の守り方について共通認識を持ってゲームに臨んだ。</p> <p>・ゲームの中で、ドライブに対する不当な体の触れ合いがどこまでオフェンスプレーヤーに影響を及ぼしているのか、もう少し丁寧に見極めて判定する必要があった。</p> <p>・ショットクロックなどが誤った操作によりリセットされてしまう場面があったが、クルーで協力し、正しい時間に訂正することができた。</p> <p>・ポストゲームカンファレンスでは、リバウンドを取った後のディフェンスの守り方について、もう少し丁寧に判定していくことで、よりゲームがスムーズに進むとの助言を頂いた。</p>	

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8 年 3 月 16 日

担当試合

試合日	令和8年3月8日(日)
回戦 カード 点数	女子1位リーグ 9:00 深川(東京1)32-35東深井レインボーズ(千葉2)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:佐藤 俊太郎 氏(東京) U1:今井 康輔
審判員主任名	丸山 淳 氏(本部)
試合振り返り	

・プレゲームカンファレンスで確認した、体や手のイリーガルな接触に対して積極的に判定をしていくことについて、クルーで共通認識を持って試合に臨むことができた。
・試合を通して、プレーに対する目の当て方を変えていくことで、より良い判定につながるのご指摘を頂いた。具体的には、ボールマンのマッチアップだけを見るのではなく、次にボールをもらいに来る選手など、1ペアだけでなく2ペア以上のプレーヤーに目を当てることで、次のプレーを予測して位置取りを行うことができるようになって感じた。
・また、自分のプライマリのプレーをCCに吹いていただいた場面を自分で振り返り、自分のエリアは自分で笛を吹けるよう努力していく必要があると感じた。

担当試合

試合日	令和8年3月8日(日)
回戦 カード 点数	男子3位リーグ 12:30 Zeus U12(東京1)50-40楡形CRB(山梨4)
会場	小瀬スポーツ公園体育館
審判員名	CC:山口 淳 氏(東京) U1:今井 康輔
審判員主任名	堀内 勝男 氏(山梨)
試合振り返り	

・両チームにビッグマンがいるゲームであったため、プレゲームカンファレンスではビッグマン同士のマッチアップに目を当て、ダイナミックに見せる場面はしっかりと見せるなど、観客にもゲームの魅力が伝わるような判定を意識してゲームに臨んだ。
・ゲームの中では、ビッグマンがリバウンドを取った後にそのままボールプッシュする場面において、ディフェンスの守り方をもう少し丁寧な判定する必要があると感じた。
・UFがあった場面では、その処置の方法や見せ方について、もう少し分かりやすく示す必要があると感じた。
・インテンシティの高いビッグマンに対しては、試合中にコミュニケーションを取ることや、プレー中に声をかけるなどの工夫を行なった。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

私自身、初めて派遣審判員として関東大会に参加をさせていただき、高さや技術のレベルの高いゲームを数多く担当する中で、多くの学びを得ることができました。
本大会では、事前の審判会議でお話があったプレゼンテーションを自身の課題として取り組みました。大きな会場では、笛の音の聞こえ方や観客からの見え方も普段のゲームとは大きく異なるため、どのようにすれば分かりやすいプレゼンテーションができるのか試行錯誤しながら2日間を過ごさせていただきました。その中で、やはり正しい判定があってこそそのプレゼンテーションであるということを再認識することができ、非常に実りある有意義な2日間となりました。今回の派遣で学んだことを県内で共有し、栃木県全体、そしてU12連盟の発展に貢献していきたいと考えています。
最後に、派遣に際しましてご配慮いただきました梶審判長をはじめ、県内審判員の皆様、大会運営に携わってくださった山梨県の皆様に心より感謝申し上げます、報告いたします。